

京都市小学校教科書選定委員会 答申

音楽科について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。
- 3 児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。
- 4 表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成に向け、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動が展開しやすいこと。
- 5 表現及び鑑賞領域と〔共通事項〕との関連が図られるとともに、我が国や郷土、諸外国の音楽文化や和楽器を含めた伝統音楽への関心を育む活動や教材が適切に取り上げられていること。
- 6 題材構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 7 基本人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

音楽科

調査研究の結果の概要

■教育出版「小学音楽 音楽のおくりもの」

〔共通事項〕の取り扱いとしては、見開きごとに〔共通事項〕で示されている音楽を形づくっている要素が「音楽のもと」として右上に示され、中・高学年では、児童が気付きを記入するメモ欄も設定するなど工夫されている。また、教材ごとに学習目標を設定し、新出の音符や用語などはページ右側の欄に統一的に示すなど、見やすさにも配慮されているが、一方で、巻末での音符・記号等の振り返りでは、学年での関連学習ページが示されている程度で、学習内容の振り返りや基礎的・基本的な知識・技能の内容の定着を意図した工夫が弱い。

「音のスケッチ」にて音楽科の特質に応じた言語活動が展開できる教材を設けたり、「音楽を表すいろいろな言葉」を巻末に掲載したりするなど、豊かな言語活動が展開できるよう工夫されている。

一方、思考力・判断力・表現力等の育成に向けては、学び方を具体的に示した「まなびナビ」や「学び合う音楽」などを設けているが、教材によっては記載がなく、また、ワークシートに気を付けるべき視点等があらかじめ表記されているなど、児童が見通しをもって学習し、思考を広げたり深めたりする配慮が薄い。

児童が学びを深めることができるよう、参考となる鑑賞曲や発展的な活動が用意されている。また、オプション部分として歌唱・器楽教材や鑑賞教材の曲が充実しており、児童の実態に応じて弾力的に題材を構成することができ、優れている。

体を動かしながら楽しめる曲や、歌唱教材で作者のメッセージが用意され、技能面とは異なる点での児童の学びを深める工夫がされている。

日本の伝統的な音楽に関心を育む教材が用意されており、日本の伝統楽器である和太鼓を学習後、次時の題材に「おまつりの音楽をつくろう」を設定するなど、児童が既習内容を活かしながら、思いや意図を自分なりに表現できる題材設定や表現及び鑑賞領域との関連が図られるよう工夫されている。

■教育芸術社「小学生の音楽」

全ての教材で学習目標が示され、音楽を形づくっている要素を中心に各教材を結びつけた題材構成となっている。また、題材のねらいに即した学習が展開できるよう、マーク等を用いて学び方や活動ポイントを示すなど、児童が主体的に音楽を形づくっている要素と関連した学習ができるようになっている。新出の「音符、休符、記号や用語」は、「がくふマスター」で明示され、巻末の音符等のまとめページでは、下学年での学習事項についても示されており、学習の積み上げも意識した構成となっている。

鑑賞の教材やワークシートでは、児童が感じ取ったことなどを自由に書き込む欄が設けられ、自分の考えを基にした言語活動が展開しやすく、また、キャラクター等のセリフの内容において対話

の工夫例を示したり、マーク等で思考を促したりするなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながる工夫がなされている。

「めあて」と「まとめ」が題材ごとに分かりやすく設定・提示されており、見通しをもって学習を進めたり、これから学習につなげたりできるよう、よく工夫されている。また、テーマに沿った調べ学習などを「チャレンジ」コーナーにて設けたり、音楽づくりの教材では、児童同士の協働的な学習を促すワークシートが用意されたりするなど、探求意欲を高め、発展的な学習を展開しやすい工夫がなされており、優れている。

各題材では音楽を形づくっている要素を軸に、歌唱→鑑賞→器楽→歌唱と、複数の教材にて往還的に学習することで、題材を理解し、学びの関連付けを深める工夫がなされ、優れている。

日本の伝統的な音楽に関心を育む教材が用意されており、伝統楽器である「こと」と「さくらさくら」の曲を用い、日本の旋律の特徴を感じることができるように、鑑賞→「こと」の演奏→音楽づくりとを関連付けた学習が展開され、表現領域と鑑賞領域との適切な関連が図られるなど工夫されている。

感謝の気持ちを身近な人に音楽でどのように表現するかを考察させるなど、音楽のもつている力や役割を児童に気付かせる教材が設定されており、家庭や地域との連携についてもよく配慮・工夫されている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

音楽科

観点別・視点別評価

「◎」優れている 「○」標準的 「△」やや劣る

選定の観点		選定の視点		教育出版	教育芸術
1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るために工夫・配慮がされていること。	1 [共通事項]の適切な取扱い			○	○
	2 表現及び鑑賞の活動のポイントの表記			○	○
	3 音符・休符・記号や音楽に関わる用語についての明記			△	○
	4 歌い方や楽器の奏法に関わる表記			○	○
2 習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。	1 音楽科の特質に応じた言語活動の充実			○	○
	2 思考、判断し、表現する一連の過程設定の工夫			△	○
3 児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。	1 探究意欲を高め、主体的・対話的に学ぶための工夫			○	◎
	2 発展的な学習活動を促すための工夫			○	○
	3 ICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫			○	◎
4 表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成に向け、音楽的な見方・考え方を働きかけた学習活動が展開しやすいこと。	1 知覚・感受したことと表現及び鑑賞活動との関連			○	◎
	2 児童の思いや意図を意識した教材の明示			○	○
	3 児童の音楽的な見方・考え方を深まる教材の明示			○	○
5 表現及び鑑賞領域と[共通事項]との関連が図られるとともに、我が国や郷土、諸外国の音楽文化や和楽器を含めた伝統音楽への関心を育む活動や教材が適切に取り上げられていること。	1 日本の伝統的な音楽に関わる教材の充実			○	○
	2 和楽器に関する教材の充実			○	○
	3 表現領域と鑑賞領域との適切な関連			○	○
6 題材構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。	1 題材構成の系統性・発展性			○	○
	2 他教科や教育課題等との関連			◎	○
	3 他校種との接続			○	○
	4 家庭・地域との連携			○	◎
7 基本人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1 人権教育の推進			○	○
	2 道徳教育の推進			○	○
8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文章や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫			○	○
	2 ユニバーサルデザインの視点			○	○
	3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫			○	○
	4 用紙、インク等の環境面への配慮			○	○

【音楽】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るために工夫・配慮がされていること。

発行者名	
17 教育出版	27 教育芸術社
<p>○見開きごとに〔共通事項〕で示されている音楽を形づくっている要素が「音楽のもと」として右上に示され、中・高学年では、児童が気付きを記入するメモ欄も設定されるなど工夫されている。また、巻末においても、音楽を形づくっている要素がイラストと共に示され、学習したことを振り返ることができるよう工夫されている。</p> <p>○教材ごとに学習目標が示され、題材のねらいに即した学習が展開できるよう工夫されるとともに、「まなびナビ」(低学年)や「学び合う音楽」(中・高学年)で具体的な活動例が示されている。また、セリフなどで活動ポイントも示されるなど、児童が見通しをもちながら、音楽を形づくっている要素を手掛かりにした学習ができるよう工夫されている。</p> <p>○新出の「音符、休符、記号や用語」について、ページ右側の欄に統一的に示されるなど、児童が視覚的にも確認しやすい設定となっている。また、巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」が示されており、音楽の言葉を使って学習を進めることができるよう工夫されている。しかし、「音符や休符、記号など」については、学年での関連学習ページが示されている程度で、学習内容の振り返りや基礎的・基本的な知識・技能の内容の定着を意図した工夫が弱い。</p> <p>○基礎的な歌唱技能を身に付けるためのポイントや當時活動が「スキルアップ」や「歌声」で示され、繰り返し学習できるよう工夫されるとともに、関連題材に加え、巻末の「楽器図鑑」にも楽器や奏法について写真で分かりやすく示されるなど、楽器の扱い方が理解しやすいよう工夫されている。</p>	<p>○見開きごとに〔共通事項〕で示されている音楽を形づくっている要素が、見やすくするために題材ごとに色分けして示されるとともに、巻末の「ふり返りのページ」においても、1つ1つの〔共通事項〕が、教科書該当ページも含め改めて提示されるなど、学習内容を振り返って確認したり関連付けたりしやすいよう工夫されている。</p> <p>○題材のねらいに即した学習が展開できるよう、教材ごとに学習目標が示されるとともに、独自のマークやキャラクターを用いて学び方や活動ポイントが示されるなど、児童が主体的に音楽を形づくっている要素と関連した学習ができるようになっており、工夫されている。</p> <p>○新出の「音符、休符、記号や用語」が「がくふマスター」で明示され、新出事項を意識しながら、学習を進められるよう工夫されている。また、「おもいだそう」のコーナーに、前に学習したことを確かめるためのページが示され、巻末の「いろいろな音符、休符、記号ほか」において、1年間の学習内容の振り返りとともに、下の学年での学習事項についても分かりやすく示され、学習の積み上げも意識しながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けて工夫されている。</p> <p>○学年間を通じて基礎的な歌唱技能を系統的に身に付けることができるよう、「歌声ルーム」には歌唱技能のポイントが写真等を用いて示されている。また、楽器演奏については、楽器の持ち方、演奏の仕方や運指が示されるなど、楽器の扱い方の理解や基本的な奏法を身に付けることができるよう配慮・工夫がされている。</p>

※〔共通事項〕：「A表現」「B鑑賞」の指導を通じて、下記の2点を身に付けることができるよう指導する。

①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じとりながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えること。

②音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

※音楽を形づくっている要素

小学生の発達の段階において指導することがふさわしいものを、「ア 音楽を特徴付けている要素」・「イ 音楽の仕組み」の2つに分け、適切に選択したり関連付けたりして指導する。

ア 音楽を特徴付けている要素：音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど

イ 音楽の仕組み：反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。

発行者名	
17 教育出版	27 教育芸術社
<p>○「まなびナビ」や「学び合う音楽」での学習のねらいに即した話し合い活動や、巻末の「音楽を表すいろいろな言葉」での学習を通じて、豊かな言語活動が展開できるよう工夫されている。また、言葉だけでなく、音を媒介としたコミュニケーションが図れるよう「スキルアップ」のコーナーで、早口やリズム遊びを取り入れるなど工夫されている。音楽づくりの教材では、音楽科の特質に応じた言語活動が展開できるよう、「音のスケッチ」のコーナーが用意され、自分の考えを基にした言語活動が展開できるよう工夫されている。</p> <p>○主体的な学びを引き出すため、「まなびナビ」や「学び合う音楽」で学び方が具体的に示されているが、教材によっては設定されておらず、児童が見通しをもって学習しづらい側面があるとともに、ワークシートも気を付けるべき視点等があらかじめ表記されているなど、自由記述と比べ、児童自らが思考を広げたり深めたりしにくくなっている。また、体を動かす活動を取り入れながら、旋律の流れを理解できるよう工夫されているが、旋律線は鑑賞におけるポイント等を捉えにくい表記となっている。</p>	<p>○キャラクター等を用いてセリフ形式で話し合う視点や工夫例を示し、また、「考える」マークを用いて思考を促す問いかけが示され、学習のねらいに即した活動ができるよう工夫されているなど、スムーズに自分の思いを話すことができるよう配慮されている。音楽づくりの教材において、音を媒介としたコミュニケーションが図れるよう、ヒントとなる言葉が示され、音楽科の特質に応じた言語活動が展開できるよう工夫されている。また、鑑賞の教材では、児童が感じ取ったことなどを自由に書き込む欄が設けられており、自分の考えを基にした言語活動が展開できるよう工夫されている。</p> <p>○全ての教材で学習目標が示され、児童が学習の見通しをもちやすいうえ、学んだことを関連付けたり活用したりすることができるよう、音楽を形づくっている要素を中心に各教材を結びつけた題材構成となっている。ワークシートでは、鑑賞を通じて感じ取ったことを感じ取ったままに自由に記入されるなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながる工夫がなされている。また、旋律の特徴が旋律線で示されていることで、視覚的に曲全体の変化などを捉えることができ、演奏の仕方及び楽器の音色までイメージを広げ、鑑賞曲の特徴等についての思考を働かせてつかみやすいよう工夫されている。</p>

【選定の観点3】

児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名	
17 教育出版	27 教育芸術社
<p>○全学年に児童の主体的な学びを引き出す「まなびナビ」や「学び合う音楽」が設定され、児童が各題材についての学習の見通しをもちやすいよう工夫されている。また、音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として教材ごとに示し、中・高学年では児童が気付きを記入するメモ欄も設けるなど、探究意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○児童が学びを深めることができるように「もっとあそぼう」のコーナーが用意され、参考となる鑑賞曲や発展的な活動を示し、児童がさらに曲を味わったり親しんだりできるよう工夫されている。</p> <p>○児童が演奏や演奏方法を視聴したい楽譜や楽器のすぐ横に二次元コードが設定されており、ICT機器を活用して、児童一人一人の学びに応じて何度も確認することができ、児童一人一人が自身のペースや必要に応じて何度も確認することができ、工夫されている。</p>	<p>○各学年の題材ごとに、主体的な学習を促すコメントをキャラクター等のセリフやマークを用いて示すことで「何を学ぶのか」が分かりやすく提示されるなど工夫されている。また、題材の最後のページに学習のまとめが示され、学んだことを振り返り、これから学習につながるようになっており、優れている。</p> <p>○全学年を通じて、既習事項を振り返る「おもいだそう」の項目が設定されており、学びを積み上げ活用できるよう配慮され、キャラクター等のセリフに、活動を発展させる際のポイントを示すことで、学びを深めることができるよう工夫されている。さらに「チャレンジ」コーナーが設けられ、テーマに沿った発展的な学習内容や、調べ学習が用意されるなど工夫されている。</p> <p>○どの教材にも紙面右上に二次元コードが設定されており、学習に役立つ音楽や資料などのコンテンツを視聴でき、ICT機器を活用して、児童一人一人が自身のペースや必要に応じて何度も確認することができる。また、音楽づくりの学習を支援するワークシートをもとに、児童同士が協働的に学習を進めることもでき、実際につくった音を機器にて録音し、試行錯誤を促すコメントがあるなど、優れている。</p>

【選定の観点4】

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成に向け、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動が展開しやすいこと。

発行者名	
17 教育出版	27 教育芸術社
<p>○体を動かしながら楽しめる曲が表現・鑑賞ともに全学年を通じて取り上げられ、聴き取ったり感じ取ったりしたことと言葉以外で表現することや、歌唱教材で作者のメッセージなどに触れることで、技能面とは異なる点での児童の学びを深める工夫がされている。</p> <p>○「音のスケッチ」にて、音声で自分なりに表現する学習が学年ごとに用意されており、鑑賞した曲にちなんだ音楽を鑑賞学習後に表現するなど、児童が表現・鑑賞の既習内容を活かしたりしながら、思いや意図を自分なりに表現できる題材が設定されており、工夫されている。</p> <p>○鍵盤ハーモニカの学習（1年生）では、入門期より3本の線が書き込まれており、視覚的にも音の高さを捉えやすくする工夫がされている。また、2年生以降では、導入部分に「スキルアップ」のコーナーが設定され、アンサンブルの基本となる拍にのってリズムをとる学習など、音楽的な見方・考え方につながる基礎的な力を育めるよう工夫されている。</p>	<p>○各題材では音楽を形づくっている要素を軸とし、表現（歌唱分野）→鑑賞→表現（器楽分野）→表現（歌唱分野）と、複数の教材が配置されており、往還的に活用・学習することで、題材をしっかりと理解し、学びの関連付けを深めることができるようになっており、優れている。</p> <p>○音楽づくりの学習では、学習の進め方が分かりやすく提示され、児童の思いや意図を引き出し、表現しやすい内容となっている。また、歌唱の学習では、児童の思いや意図を表現するために役立つ写真やコラムが適切に示され、工夫されている。</p> <p>○児童が聴き取った旋律の特徴を共有するための旋律線等の例示や、「そだてよう」のコーナーで當時活動の例として示されているリズムの学習が音楽の見方・考え方を働かせるヒントとなるなど、音楽的な見方・考え方につながる基礎的な力を育めるよう工夫されている。</p>

【選定の観点5】

表現及び鑑賞領域と〔共通事項〕との関連が図られるとともに、我が国や郷土、諸外国の音楽文化や和楽器を含めた伝統音楽への関心を育む活動や教材が適切に取り上げられていること。

発行者名	
17 教育出版	27 教育芸術社
<p>○歌唱共通教材が、学習内容に即した題材の中で扱われているほか、歌詞から想像される季節感や情景を重視した「にっぽんのうた みんなのうた」として配置されるとともに、各学年で季節や日本語の美しさなどに触ることのできる曲や日本の伝統的なわらべ歌、各地の民謡や伝統祭事等の郷土芸能に係る題材や狂言師からのメッセージを掲載するなど、児童が伝統音楽への親しみを深め、伝統と文化の尊重や郷土を愛する心を育むことができるよう工夫されている。「君が代」は、楽譜・歌詞・簡単な歌詞の大意・関連写真が掲載され、他国の国歌とともに國歌を尊重する態度を培えるよう配慮がなされている。また、3・4・6年生で取り上げられる「日本と世界の音楽」にて、世界のいろいろな歌（3年生）、リズム（4年生）、声・楽器（6年生）を取り扱うとともに、学習したことをグループで話し合う活動を設定するなど、音楽文化の多様さや豊かさへの気付きを促す工夫がされている。</p> <p>○「日本の楽器をたずねて」（4・5年生）や「日本の音楽」（6年生）で、しの笛・こと・尺八が取り上げられ、楽器ごとの専用の楽譜を載せるなど、和楽器や日本の伝統楽器に関する理解を深めるよう工夫されている。</p> <p>○2年生では、日本の伝統楽器である和太鼓のことについて学習し、鑑賞したことを実際に表現できるよう、次時の題材に「おまつりの音楽をつくろう」を設定するなど、表現及び鑑賞領域との関連が図られるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年で日本の伝統的なわらべ歌・郷土芸能に係る題材が掲載され、全学年を通じて、裏表紙には、日本の古典芸能の歴史や伝統音楽への興味・関心を高める写真を掲載し、巻末の「歌いつごう 日本の歌」のコーナーでは、共通教材以外にも古くから歌い続けられてきた日本の音楽教材を掲載している。さらに、児童の発達段階に応じて、音楽が生活の中に根付いている様子の分かる写真や、郷土の音楽を身近に感じられるような活動を取り入れた題材が系統立てて設定され、児童の伝統音楽への理解を深められるよう工夫されている。「君が代」は、全学年で楽譜・歌詞・簡単な歌詞の大意とともに、写真やコラムも掲載され、他国の国歌もとともに國歌を尊重する態度を培えるよう配慮がなされている。また、世界の伝統音楽の学習題材が用意され、音楽文化の豊かさへの気付きや音楽への親しみをより深められるよう工夫されている。</p> <p>○4年生では、民謡「こきりこ」で使用される伝統楽器が紹介され、日本の民謡の特徴を感じ取り、地域に伝わる音楽への親しみを深める工夫や、「和太鼓」（3年生）・「こと」（4年生）を実際に演奏する学習内容を「チャレンジ」コーナーとして設けるなど、和楽器に関する教材の充実や日本の伝統楽器への理解が深まるよう工夫されている。</p> <p>○「日本の音楽でつながろう」では、伝統楽器である「こと」と「さくらさくら」の曲を用いながら、日本の旋律の特徴を感じることができるよう、鑑賞→「こと」の演奏→音楽づくりとを関連付けた学習が展開されており、各学年の題材で、日本の伝統音楽・楽器の良さを一層味わえるよう、表現領域と鑑賞領域との適切な関連が図られるなど工夫されている。</p>

【選定の観点6】

題材構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。

発行者名	
17 教育出版	27 教育芸術社
<p>○領域・分野ごとに基づき、発達段階に応じた教材の配置がなされるとともに、低・中・高学年の2学年ごとの関連題材の設定等を踏まえて、6年間の学習の積み上げを意識した系統的な題材構成が工夫されている。</p> <p>○当該学年での既習曲を英語歌詞で学習するなど、全学年で英語の歌を取り上げられていたり、国語科や算数科などとの関連のある教材曲が掲載されたりするなど、他教科等との関連が図られている。また、環境についての歌を取り上げることで、SDGsに関心をもつことができるよう工夫されている。題材の主要部分とは別に、オプション部分として歌唱・器楽教材や鑑賞教材の曲が充実しており、児童の実態に応じて弾力的に題材を構成することができるようになっており、優れている。</p> <p>○児童が幼児期になじみの深いイラスト・教材等、身体性を生かした活動などが設定されているなど、校種間連携に配慮されている。</p> <p>○地域の民謡や祭囃子、遊び歌などが教材として設定されていたり、コラムで音楽と人々の暮らしとの関わりが示唆されていて、児童が地域社会の伝統や行事を感じるなど、地域文化等への理解を深める構成となっている。</p>	<p>○各学年巻頭での年間学習内容の提示、学年内での学習バランスの考慮、6年間を通じた系統的な領域・分野ごとの教材配置に加え、中学校も含めた9年間を通じた学びのつながりが配慮されるなど、題材構成の系統性・発展性が工夫されている。</p> <p>○平易な英語歌詞を選曲するなど、全学年で音楽を通じて英語に慣れ親しむ工夫が図られている。また、題材の主要部分とは別に、巻末に歌唱や器楽教材の曲が掲載されるなど、児童の実態に応じて、柔軟な題材構成とができるよう工夫されている。</p> <p>○幼児期に歌った経験のある教材やペア・グループでの活動も取り入れ、集団での学習への円滑な移行を促すとともに、体を動かしながら歌える遊び歌を設定するなど、校種間連携に配慮されている。</p> <p>○地域の人や家族の方に曲に関するインタビューをしたり、様々な歌を教わることを投げ掛けたり、卒業を迎えるにあたっての感謝の気持ちを家族等に音楽でどのように表現するかを考察させたりするなど、音楽のもつている力や役割を児童に気付かせるよう配慮されている。また、地域に伝わる音楽の調べ学習なども設定されているなど、優れている。</p>

【選定の観点7】

基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名	
17 教育出版	27 教育芸術社
<p>○全学年で全校合唱曲「さんぽ」を手話もしながら歌えるように歌詞に対応した手話が挿絵で示されるとともに、「小さな世界」(3年生)では、「世界のともだちと歌でなかよくなろう」と呼び掛け、外国の児童のイラストや挨拶も掲載されるなど、音楽を通じて外国とのつながりを意識できるよう工夫されている。また、教材曲や作詞者・作曲者にぶりがなが付されているとともに、作品には作者が必ずいて、作者の創造性を尊重することの大切さを意識させる配慮がなされている。</p> <p>○ストリートピアノで誰もが音楽を楽しんだり、インターネットを使って演奏映像を配信し音楽を共有したりできる試みを掲載し、音楽には心と心をつなぐ役割があることに気付かせる配慮がされている。また、作詞・作曲家等の権利を守る、ネットリテラシーにも触れている。6年生の巻頭には、音楽を通じた人々とのふれ合いに関する全盲のピアニストからのメッセージを掲載し、道徳教育を視野にいれた工夫がなされている。</p>	<p>○「音楽でみんなつながろう」(2年生)の曲では、様々な外国の挨拶に加え、日本語での挨拶が手話で示されているとともに、「日本や世界の音楽に親しもう」(6年生)では、いろいろな国の人々が大切に伝えている音楽を取り上げ、音楽を通して、多様な他者への配慮・人権の尊重について考察させる工夫がなされている。また、「著作権について知ろう」(6年生)のコラムでは、前時の音楽づくりの学習でつくった作品を手掛かりに、作者の創造性を尊重することの大切さに気付かせる配慮がなされている。</p> <p>○防災・復興・感染症と音楽との関わりを特集ページで取り上げ、音や音楽と生活や社会との関わりを踏まえ、「音楽はどんな存在なのか」ということを児童に考察させるよう工夫されている。また、5年生の心をつなぐ歌声「Believe」には、作詞・作曲者からのメッセージが掲載され、音楽を大切にすることを通して、友情・信赖などの道徳的心情が育めるように工夫されている。</p>

【選定の観点8】

表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名	
17 教育出版	27 教育芸術社
<ul style="list-style-type: none">○AB変形版で、文字の大きさ、文字間や行間も読みやすく、配色やレイアウトも工夫されている。○特別支援教育の専門家による監修がなされるなど、UDフォントやCUDなどユニバーサルデザインに配慮されている。○造本は堅牢である。○再生紙や植物油インキの使用など環境にも配慮されている。	<ul style="list-style-type: none">○AB変形版で、文字の大きさ、文字間、行間は読みやすく、優しく柔らかい色調であり、配色や囲みなどレイアウトも工夫されている。○特別支援教育の専門家による校閲がなされるなど、色覚特性やユニバーサルデザインに配慮されている。○造本は堅牢である。○再生紙や植物油インキの使用など環境にも配慮されている。

※UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント、CUD：カラー・ユニバーサル・デザイン